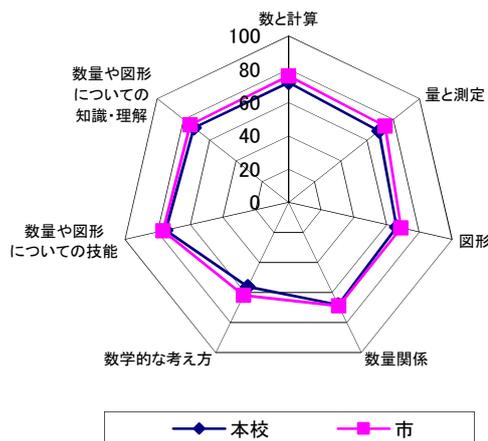


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.1	76.1	73.5
	量と測定	68.9	73.6	70.1
	図形	66.1	68.8	66.6
	数量関係	68.2	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	56.1	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	75.1	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	72.1	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小数点以下の計算については、正答率が低かった。 ○分数のたし算・ひき算は市を上回っている。 	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きく、数と計算の領域に苦手意識をもつ児童も見られる。かけ算・わり算の筆算で間違える児童もいる。授業では、習熟度別コース授業を行っているものの、通分・約分等に必要なわり算・公約数などの理解が定着していない。ドリル的な反復学習を進めて理解の定着を図るとともに、文章力の読解力を高める学習の時間も確保していく。
量と測定	<p>平均正答率は、市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○直方体の体積や円の面積を求める設問は、市の正答率を上回った。 ●高さが図形の外にある平行四辺形の高さにあたる場所を選ぶ設問の正答率が低かった。 ●道のりとかかった時間から、時速を求める式を選ぶ設問の正答率が市よりも低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積や体積などの公式はしっかり覚えている。公式を使って正確に速く答えを導くことができるよう、反復練習が必要となる。公式については、丸暗記ではなく既習事項をもとに根拠を明確にしながら計算させる活動を取り入れていく。さらに、解決方法の説明ができるよう、解き方についての言語活動の時間を確保するなどの支援をする。また、単位量の考え方をしっかり定着させたい。
図形	<p>平均正答率は、市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同な三角形の作図についても9割以上の正答率であった。 ●線対称な図形の対応する点を見つける設問の正答率は42.4%で、市よりも低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形についての関心・意欲は高く、授業中進んで取り組む姿が見られる。今後は、ただ図形を作図するだけでなく、図形の特徴をとらえたり規則性を見つけたりするような活動を取り入れ、正しい作図の仕方を理解させたい。
数量関係	<p>平均正答率は、市を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の値を求める設問は、9割近くの正答率であった。 ●単位量当たりの考え方や割合及び比を使って問題を解く設問の正答率が低かった。 ●文字を使って2つの数量の関係を式に表す設問の正答率は市よりも低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・割合や比の指導の際には、昨年度から習熟度別での授業を行っている。割合についての知識理解は定着しているものの、比較量や基準量を求める文章題は苦手意識をもつ児童が多い。教師用カードを用いて式や意味を分かりやすく説明したり、生活の具体的な場面と関連させながら解決できるようにしていく。